

# めぐみ

## 2023年 1月号

学校法人 聖公会北関東学園  
初雁幼稚園  
〒350-0057 川越市大手町 8-5  
Tel.222-5385 Fax 228-5010  
E-mail hatsukari-kg@nifty.com

### 何気ない毎日の関わりの中で

事務 山岡 結



この冬、箱根にある星の王子さまミュージアムに行きました。ずっと行ってみたいと思っていた中、今年度末に閉園すると知り、この冬に行くことを決めました。

ミュージアムに行く前にどのような物語なのか知りたいと思い、家にあった「星の王子さま」を初めて読みました。小惑星に住む「王子さま」は、その惑星にある一本のバラと仲たがいがいしたことがきっかけで旅に出ます。星々を巡り、最後に地球に来て、語り手である「ぼく」に出会います。（「ぼく」は飛行機の故障でサハラ砂漠に不時着し、修理に必死な状況でした。）

王子さまは「ぼく」に、他の星々で出会った大人たちや、地球で出会ったもの、見たことを通して彼が考えたことを語ります。最後はある出来事により、再び自分の星へと帰っていきます。

王子さまは自分の惑星にあるたった一本のバラをととてもとても大切にしていました。水をやり、風除けのガラスの鉢をかぶせ、毎日一生懸命お世話していました。ですがバラがあんまり気難しいので苦しくなり、バラを置いて旅に出たのでした。地球に来た時、ある庭に 5000 本のバラが咲いているのを見て王子さまはショックを受けます。彼のバラはこの宇宙にたった一本しかない種類だと思っていた…特別な花を一本持っているから自分は豊かだと思っていたけれど、それは普通の花だった…他にも自分の持ち物を思い浮かべ、これだけじゃぼくは立派な王子とは言えない、と泣き出します。そんな時に王子さまは一匹のキツネと出会い、友だちになります。キツネと過ごす時間を通して王子さまは、同じバラでも自分にとって大事なものは、他ならぬ「あの」バラであり、自分にとっては紛れもなく特別な一本のバラだということに気がつきます。「ぼくのバラは、他のバラよりずっと大切だ。なぜって、ぼくがお世話をしたバラはそのバラなんだから」と。そのことに気づいて出発する時、お別れにとキツネが秘密を教えてくださいました。「ものは心で見える。肝心なことは目では見えない」と。そして、「ぼくは何もわかっていなかった、あのバラの気難しさの陰に隠れた優しさを察することができればよかった」と「ぼく」に話すのです。

たった一本のバラの存在が、王子さまの心の灯でした。王子さまがバラにしていたことは、ごく当たり前のことであつたと思います。何気ない毎日の関わりの中で愛は生まれるということ、目には見えない大事なことが私たちの生きる世界にはたくさんあるということに、「星の王子さま」を通して気づかされた気がしました。2023 年が認定こども園初雁幼稚園に集う一人ひとりにとって、毎日の中で心に灯りがともる温かい年になりますように！

# 今月の保育目標と予定

## ☆保育目標☆

今月のテーマ  
「どうする？」

### 目 標

- 友だちとアイデアを出し合い、工夫して遊びを充実させる
- 神様への思いが膨らむ

### 学年別のねがい

- (1歳) 身体をいっぱい動かす
- (2・満3歳) 友だちとのつながりを楽しむ
- (年少組) 友だちと一緒に遊びを充実させる
- (年中組) 集団で遊ぶおもしろさを感じる
- (年長組) 活動に見通しを持ちながら取り組む

### ひとこと

新しい年を迎えました。今年もどうぞよろしくお願いたします。

年度の最終コーナーです。これまで友だちとたくさんの経験を積んできた子どもたち。1月はさらに友だちとアイデアを出し合うことによって遊びが広がる楽しさを味わってほしいと思います。1、2歳の子どもたちも「友だちと同じことをしてみたい！同じことを一緒に言いたい！」という気持ちにあふれています。寒さに負けず、身体をいっぱい動かして友だちとの毎日を楽しく過ごしてほしいと思います。

### 今月の聖歌

「やさしいめが」

### 今月の歌

「おもちゃのチャチャチャ」

## ★予定★

日	曜	行事などの予定
1	日	元日
2	月	振替休日
3	火	園児・教職員冬休み終了
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	就労家庭保育実施日
8	日	
9	月	成人の日
10	火	幼児部始業式（短縮保育）
11	水	
12	木	年長組読み聞かせ「おはなしの部屋」
13	金	全体礼拝
14	土	就労家庭保育実施日 保育実践
15	日	
16	月	年長組社会見学（雨天実施）
17	火	
18	水	聖書研究
19	木	
20	金	全体礼拝
21	土	就労家庭保育実施日 新採研⑩
22	日	
23	月	幼児部個人面談週間（30日まで）
24	火	
25	水	1月生まれ誕生会（出し物年少組）
26	木	
27	金	全体礼拝
28	土	就労家庭保育実施日
29	日	
30	月	
31	火	



# チャプレンのページ



## イエス様の幼少期

「幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた」

(ルカによる福音書第2章40節)

12月15日、初雁幼稚園の園児たちによる聖劇礼拝が行われました。主な役を演じたすみれ組の園児たち、星を演じたたんぽぽ組の園児たち、羊を演じたちゅうりっぷ組の園児たち、それぞれが理屈や説明ではなく、イエス様誕生を自分自身が体験したと思います。礼拝は決まった言葉を用いてお祈りをするだけでなく、自分自身のすべてをもって神様とのつながりを実感する時であるのを、保護者の皆様にもご理解いただければと思います。

さて、イエス様誕生についての聖書記事は、ユダヤの律法に従い誕生後8日にイエス（「神は救い」という意味です）と名づけられたこと、40日目にこれも律法に定めに従って、両親に連れられて神殿に礼拝に行った物語が続きます。その最後に書かれているのが冒頭の聖書の言葉で、この後を見ると、イエス様が12歳になった時の物語になっています。すなわちイエス様の幼少期を伝える物語は聖書には記されていないことになります。

そこで聖書の他の箇所を見て、イエス様の幼少期を垣間見てみたいと思います。

マルコによる福音書第6章3節を見ると、イエス様にはヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンという弟がいたこと、そして名前は書かれていませんが姉妹たち、すなわち妹が複数いたと書かれています。この子たちはヨセフとマリアの子どもたちになります。

ヨセフとマリアには合わせて6人以上の子どもが生まれました。イエス様は一番上の兄として、その度に母マリアを助け、大工だった父ヨセフの手伝いをしていたのは間違いないでしょう。また、弟や妹の誕生後は、家族の一員として共に過ごし、その養育にも携わったことでしょう。

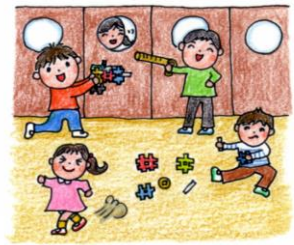
さらにイエス様が12歳になった時の物語を読んでも、律法に精通している様子がうかがえますので、本を読んだり、勉強を熱心に行っていたことがうかがえます。子どもたちの讃美歌で、イエス様幼少期の歌がありますがけれども、いずれもよく本を読んだり、両親の手伝いをよくしている内容になっているのは、こうした背景があるからです。

しかしイエス様は模範的で完全無欠な子どもだったと言っているわけではありません。神の子でありつつも、人間と同じ成長を遂げていったということが重要です。人に愛され、人に導かれて、一人の人間として成長していったイエス様の姿は、私たちの養育にも大いに通じる箇所があります。ヨセフとマリアもまた、子育ての苦勞をした親であったのを、私たちも忘れないようにしたいものです。

三学期の日々の上に、神様の祝福と導きが豊かにありますよう、お祈りいたします。

(チャプレン 鈴木 伸明)

# クラス の まと窓



## つくし組

全員徒歩で散歩へ！

4月からいろいろな公園に行き、たくさん歩いて足腰を鍛えてきた!?つくし組。ずいぶんと体力もつきました(食欲も増しました)。六軒町の公園やいちょう久保稲荷まで片道ならば余裕の様子。今の時期はどんぐりなどのたくさん木の実、綺麗な落ち葉などがあり嬉しそうに拾い集めています。園に戻る頃にリスのほっぺたのようなポケットになっていることも。木の実宝物のようでもあり、ままごとの具材でもあり重要なものようです。

浮島公園に行った時に可愛い光景が見られました。友だちの真似をして楽しむことも増えてきて、ひとりが木の根元にゴロンと転がると「僕も私も」と次々に横になりしばらくその場でまったり。まるでジブリの世界のよう。そして先日なんとついに6名全員で幼稚園→鐘つき通り→稲荷小路→幼稚園と徒歩、バギーなしで散歩へ行ことができました。保育者や友だちと手を繋ぎお店を見たりバスをみたり。道ゆく人に「上手に歩けるわね」と褒められ誇らしげです。今は徒歩では近場の公園だけ少しづついろいろな公園にチャレンジしていこうね！

## もも組

歌って踊って大盛り上がり♪

最近のホールでの遊びといえばステージに上がって歌ったり踊ったりが大盛り上がりのもも組。少し前までは保育者に「このおうたやりたい」とリクエストしていましたが、最近は音楽を流さなくてもステージの袖から「みんな～！こんにちは～」とうたのおねえさんごっこが突如始まります。保育者はお客さん役をして「〇〇おねえさん」と手を振るとお姉さんになりきった子どもたちが手を振り返してくれる、というところまでが鉄板になっています。他にもステージの真ん中で好きな歌を歌ったり友だちの真似をして体を動かしたり、それぞれがやりたいことを表現していてとても楽しそうです。また、11月の誕生会の出し物で「バナナくん体操」をした時も、ステージに誘うと何人かはのりのりでステージに上がって体操をしたり、自作の踊りを友だちと踊って楽しんでいました。友だちの力や安心できる環境があつてこそかもしれませんが、体を使ってこんなに表現できるようになったんだなあととても嬉しく感じます！

## ちゅうりっぷ組

キラキラ輝く憧れの存在

12月に入り、ツリーの飾り付けをして、アドベントカレンダーをめくりながら、初めてクリスマスの意味を知ったちゅうりっぷ組。羊の衣装がプレゼントで届いたことにしましたが着ることに戸惑い、初めて聞く羊の歌は見様見真似で踊っていました。練習を重ねるうちに「次は羊さん着てみる！」と自分なりに挑戦しようとし、日常の中で歌を何気なく口ずさむようになりました。上手になった羊の歌を「羊コンサート」として友だちや先生を招待し披露すると、「すごい」と褒めてもらい照れながらもとっても嬉しそう！少しづつみんなの中での聖劇礼拝が、「何か楽しそうなこと」に変わっていきました。

楽しみになった理由の一つに、年中長組の存在もあります。2学期後半は縦の繋がりが増え、すみれ組たんぽぽ組の中で一緒にお団子作りやかくれんぼ、むっくりくまさんなどルールの簡単な遊びを楽しんでいました。わからないことがあれば年中長組に聞くと優しく教えてくれたり、一緒に考えたりしてくれます。そんないつも優しいお兄さんお姉さんが聖劇礼拝で頑張る姿は、ちゅうりっぷ組のみんなの中でキラキラ輝く憧れの存在なのです。これからもそんな子どもたち同士の繋がりを大切にしながら、元気いっぱい過ごしていきたいと思います。

## たんぽぽ組

進級に向けて心ひとつに！

聖劇礼拝に向けて、クリスマスのお話を聞いたり、歌をうたったり。導きの星の役を演じる上では、「流れ星にならないように、ぴたっと止まる」「博士さんが迷わないように移動の場所を覚える」など、子どもたち一人一人が、自分たちの役割を果たそうと一生懸命でした。本番は、残念ながらお休みの子が何人かいましたが、「お休みの子の分まで頑張ろう」という声も聞こえてきて成長を感じると共に、たんぽぽ組の心が一つになっていることを感じた瞬間でした。

「すみれさんになったらこの役をやりたい！」と今から期待に胸を膨らませている子どもたちも、あと3ヶ月でよいよ年長組。頼りにされたり、当番の仕事を任せられたりする中で、自信や責任感が少しずつ生まれてくることと思います。その中でも、友だちや先生に思いをぶつかけたり、時には甘えたりしながら、一人ひとりの「らしさ」を大切にしていきたいです。また、子どもたちが自信をもって進級できるように、様々な場面で「自分たちの力でできた！」と思えるような経験を積んでいけたらと思います。

## すみれ組

25人で一つの目標に向かって！

聖劇は、子どもたちにとって、また私にとって、大きな意味のあるものになりました。11月に行った役決めでは、自分のやりたい役と共に友だちがやりたい役のことも大切に考える姿があり、このクラスらしい優しさや温かさを感じました。ある子が言った「どの役も大切だよね」、全員が大切で必要なことが子どもたちの心に伝わっていたことに嬉しくなりました。

当日は残念ながら欠席の子がいましたが、その友だちのことを心に感じながら本番を迎えました。緊張していた子どもたちですが「みんなで頑張ろう！」と励まし合っていました。自分の役を大切に思い、また同じ役の中で協力しながら一生懸命演じる姿に子どもたちの力や成長を感じました。聖劇が終わった後、ある子が「みんなでできて良かった」と言いました。役決から本番までの間、子どもたちの一つ一つの言葉や姿が私の胸に残っています。25人で1つの目標に向かっていったこの過程は、必ず今後の子どもたちの力になると信じています。

## どんぐり組

何度も何度も「楽しかったね！」

12月23日にクリスマス会を行いました。公園に行った時に木の枝を集めて作ったツリーを飾りスタートです。歌やお話のペープサートを見たり、ゲームをしたりおやつ作りをしたりと、あっという間に1時間が過ぎて行きました。

おやつ作りでは、バムチームとケロチームに分かれて、ホットケーキの生地を作りました。すみれ組にボールの中にホットケーキミックスと牛乳を入れてもらい、その後一人ずつかき混

ぜます。自分の順番が来るまでそわそわしながら椅子に座って待てたちゅうりっぷ組。そんなちゅうりっぷ組に「もうすぐだね」と声をかけてくれるすみれ組。「いい匂いがして来た!」とたんぼぼ組。みんなで力を合わせて作りました。その後、ちゅうりっぷ組がお昼寝をしている間に、たんぼぼ・すみれ組で焼きました。おやつ時間、できあがったホットケーキにクリームやチョコのトッピングをして食べました。自分たちで作ったおやつを前に笑顔が溢れ、「うわ〜」「おいしそう」「もう食べていい?」とあちこちから喜びの声が上がります。普段とは少し違った過ごし方ができ、「楽しかったね!」と何度も何度も伝え合っていました。



## 今月の聖書のおはなし



### ☆ 1月13日「見失った羊のたとえ」

ルカによる福音書 15章 1~7

「あなた方の中に百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。そして見つけたら、喜んでその羊を担いで家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『一緒に喜んでください』と言うだろう。このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。」

### ☆ 1月20日「悪魔から誘惑を受ける」

マタイによる福音書 4章 1~11

イエスは悪魔から誘惑を受けるため、霊に導かれて荒野に行かれた。四十日間断食した後、空腹を覚えた。すると、誘惑する者が来て、イエスに言った。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」イエスは答えた。「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる。」続けて誘惑する悪魔に対し、イエスは、「退けサタン。『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてある。」すると悪魔は離れ去り、天使たちが来てイエスに仕えた。

### ☆ 1月27日「イエスさまとザアカイ」

ルカによる福音書 19章 1~10

イエスはエリコの町を通っていた。そこにザアカイという徴税人の頭で、金持ちの人がいた。イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低く、群衆に遮られて見るができなかったため、先回りしていちじく桑の木に登った。イエスはその場所に来ると、上を見上げて言った。「ザアカイ、急いで降りて来なさい、今日は、あなたの家に泊まりたい。」これを見た人たちは皆「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった。」とつぶやいた。するとザアカイは主に言った。「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだましとっていたら、それを四倍にして返します。」イエスは言った。「今日、救いがこの家に訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」